續一夜松後集利

後集序

[illegible]十余五ヵ
あまたの昔宗阿老人京師にいまし
一巻松集を撰しの功成て俳諧の業を
高尚なる九圭ゆつて東海石町の
鐘楼のもとに居しみづから蕉半亭と
号しその村蕉村侍をもて[illegible]仕
[illegible]の宗阿老人[illegible]の

住村東都を出で元浴して漢籍を
産業とし或る人あり此の宗道に
事を勤む村いつく余り師の俳諧
前に継る九圭の男九童我門に生て
永く先師の教を世に勧め慈
愛と云ふ人童に告て
此国に住りしより和の比村師の
表半亭を都に移し且師を
慕

慕ひて續一夜松を揖集せんを欲
といへども其志を果さずして没せ
あり童東武に赴き師の姪樓の
下に旅亭を設け師の志を追て再
撰一夜松集を撰しその間甚縁ひと
しからざるを以て親友雪中庵
ありて童を表半亭に呼むを
より前集に委敷

此編前後の集を全くしてこれを
一部のこしちやくめし此この集をのこる
人前集を合して其趣をたすけ且
お集をこと原人此集をひらきて
前後一部のこしらへをたまはりて
半並へてこれを者ハ栗田口のたまう
神の川原の室厚也
天明六丙午年九月重陽日

享保十八年癸巳春正月
一東松集巻成
乙津香雪乃一東松　宗阿
太刀於太や鳴る音　梅花九圭
明和八年辛卯春三月
京師より東半ばを
移して文臺をひらく日
老ぬるの身ハ弓矢をかしらに　蕪村

續一夜松奉納発句混雑

[illegible]　東都　不騫

誰人の春を[illegible]　雪の梅　天府

[illegible]　鹿文

瑞籬や[illegible]生の梅の木下　ナニハ　亀友

いと長や松の[illegible]　スルカ　梧泉

[illegible]　荷裳

葉莫迦や[illegible]　ユト　沙羅

[illegible]　ナタ　千渓

[illegible]　桃虎

[illegible]　月丘

[illegible]　祇一

[illegible]　日乃[illegible]　佳七

[illegible]　サガ　里隣

[illegible]　奥

白梅や美人の眉[illegible]　東皐

[illegible]　カワサ　射隼

[illegible]　春香

元のもの槍のもの　楚山
二ツ柳白梅　雪乃中（十二月）　魚三
うのの香や　手ぬぐひ　神の表（エト）　古麦尾
風ふく日となる　梅ふん月　寛我
ふくれりもの　松の子　眉元
立よの春　白の高よ　梅月　呂英
雪の花や　忘のうへ　梅の花　季流
夜海　小春　ちうの花　吳中
痩枝　ちうてう　梅花　桃牛

片隅の中　松乃月
秋深　易ふる　松の月　桂河
梅花や　野　いちう　人通　壁巴
枯枝　ふまみ　冬の梅　披雲
小郷　行深　ちうの夜　古堤
ちん　梅花　ちうう　英城
梅うや　今商　慕人　鳥の宿　餘梁
梁　神　阿陽　流化
夜の梅や　行深　白月　吾伯

異樹より[illegible]や松の張、一枝
[illegible]の[illegible]や松の枝、
[illegible]の[illegible]を梅の[illegible]、東籬
面白の[illegible]や[illegible]の昌黎（善光寺）柳莊
蝶[illegible]や銭[illegible]の松の[illegible]、
[illegible]と[illegible]や秋の松、呂吹
[illegible]の[illegible]居[illegible]梅の下、文兆
松[illegible]富士[illegible]の昔の一衣郎、路人
[illegible]や小蝶の[illegible]秋の松（エト）寸来

梅[illegible]笠や星の[illegible]衣、一成
一木[illegible]山の[illegible]麦宇
梅の香を[illegible]成義
[illegible]の松[illegible]三阿
白梅や足[illegible]雪の[illegible]黙我
ひと[illegible]竹奴
下[illegible]松[illegible]の声、星衣
[illegible]梅の美姫や[illegible]の河、三槃
涼[illegible]や松[illegible]奥[illegible]日寺、秋杵

悠然と松の一本あり涼方（エト）
梅活て水次るこゝろ、遠賀
松の月更くて又月乃松、宗砂
梅の香や神の親子なり時、珪象
産の灰梅のてのもとの、丹静
うめのもとや今誰立て桐火桶、白麻
松を出て彼松ありあり寺谷（ムヤシノ）
梅ちる乃歳もたゝぬ遠こゝ、一巣（武府中）
鳥新のこゝろれぬ日数一窓の梅有兒

知月や雲も梅咲て夏茶の代
鈴ちゝ紀乃り（シノ）浴棋
野千あるこゝの乃り梅のもゝ不寒
凌雪や赤雲ひのこゝなて
ちゝ乃る七星高一うめ此竜（フシコ）一張る
松風のゝ海ゝ高しつのもゝ山
鉢ゝ赤はゝ梅の門、巴人
松陰千魚の浮ゝ暑ゝ
梅のゝ千鳥なゝ赤のゝ、馬耳

さみだれや松に巣くう鳥の羽ぬれ　一る耳（フシコ）

棟咲てしきりに太郎月、水奴

鳴ケさの雲松の雲下のほとゝぎす

白梅や屋敷の人家の夕烟　春香

月淀　高屋に松の新法師　雪亭（タレて）

表の梅ふるひ来る雪下尺、　蓼稿

梅の香や神ぬれ来る雨の日、　南の花

外ぬ雨に梅の花　雪帯（シナノ）

古株や赤ハ小松の下　滴、如毛

ぬる風や康子の遠て　移峠、麥二

井水や月代の雨　この庭の松（フシヲカ）　玉厩

五月雨に紅色ゝの雲　春曉

一本の梅を書て

雪なき絵ひ　母屋ちの梅　桃牛

雲ゝや五うゝ中の　松乃舟

奉納

初草もて千ゝや神の松（江戸）　可因

淀ゝや雨ゝ松の陰、　亀文

雪晴や雪を梅のこゝ咲　瓦子（エト）
詩人の梅は花の中　神の庭　樓仙
新しい綿ある神の月の松　子丈
ぢやらの白さを梅のしゐ　竹庵
閑の表やたゞとわれる梅の花　山雨
月明て花の色しるの雲　有時（タカシマ）
ちり初る梅さ定る雪の月　圃丈
並松のたゝて月のたゝあり　瑳雀
あら道に松を踏て五月晴　和旦（タシテ）

新し色八日の松千んとうり　垂翅
むすまるる松風に成る清水哉　静觀（十二ハ）
花の雨山溝に梅乃白ひあり　毛我
新年の骨やあり〳〵閑の松　詩江
春もまゝ小舟に尾うゝんの花　微眉山
柏堂を立てゝ雪の梅　右撰
梅の香を浴むよる庵の月清　春江
雪解のゝ梅ちよゝゝ新の庭　守明
色〳〵を揉あゝ雪　閑の松　三保純

以遠ほきまの鼓や梅の風　十二八　菊十

をのゝあ八分ひらき東ほ　茂雪女

ゆゝつ民眼を閉ぢ梅のあるまゝ、　九雪

ちるや苔這ひの松、席風

聖廟あゝ

梅ゝのしみへや考腸平、　二村

春子濱

松風ゝ扇ゝ風ゝ濱辺の船、　ちゝ女

人ちるよゝ酔ゝ梅の咲ゝゝ、　鬼袁

古園や居ゝ梅白ゝ　布舟（タカサユ）

ゝゝ碧や松ゝあゝ遠松の風　習之

松松ゝ風ちゝゝ松ちゝゝ　巴川

梅のちる扇をかさる日ゝなる　只言

棟のちゝゝ事なる京の色　尾全

芭蕉ちるや雪ハ斑平梅白ゝ　巴陵

空ゝゝ孔ち十ゝゝゝの変（南ア）素卿

美ゝや松のゝゝや麻ゝる、

初雷梅ゝゝちのちゝゝ　夢二（エト）

松の雪　松の白波　春雨　エト　完来
春雨や一本の松　雑　嶋　奥　谷水
尾上つゝ　新年を告ぐる松の色　木奴
雪梅や　雪つゝ者　雪大松　馬耳
伏口や　時雨あり　松の家　一鷺
雪や　さゝ松　白玉　比良嶽　巴人
秋の夜　雪の中　あるゝ　星高し　春雪
新酒や　日向の梅も　ちらり　和旦
石ころ道　つゝ　梅のちる　十二月　甘三

水溜り　日の影　沈む梅の花　鶴雄
干菜洗ひ　枝もあるゝ　素陵
影向の松の葉や　蛙の声　呼心
雪梅や　日影　むれ　京甫
梅梅て　梅を拝して　ちらり　南洲
流れや　笑も吹上の松の花　牧馬
うの嶋や　下の行方　星の新　帰耕
梅ちや　且の幣もとり　仙興
中水　香を焚れて　梅花　里隠

さうつよく松の高枝や伸て涼　十二八　微眉山

小き町裏ゑの八遠し　松の陰　雪我

夕べの松ゑ月ゑ　時雨ゑ　巴人

新蕃や　土牛を造る　毒の下　一雪

先りや　松の古文も　此中庭　馬耳

寒梅や　孤松ゑ　此ゑの義陳　不奴

九月廿日　色て　東の松の風　春香

梅咲て　閑の　十二八　兎絵

雪の西森ゑ　雪ゑ　梅蕾る、　耳雨

御講の普茶　此ゑ　松の古ゑ、　吾立

梅咲て　ゑの徑　晴風

月ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　麦光

野分　治て　一義　ゑの松、　竜江

辛侯

月涼　松　三尺　乃下　九雪

梅の香の　雪　曙　ゑ　荷屋

深ゑ　唯　一東　松の雪　鹿文

千ゑ　ゑ　松の陰　東尾

赤く梅て白の咲るや春　隣　東尾

紅梅や宮司の眺る新の照　丙石

新しく陰子のけや春の梅（タハラ）　毛條

あらしむ松のあらしの四月風（カヽ）　仙

むらんとも物ふる新を庭の松　布舟

五位にてせりて白しきの番（義仲寺）　沂風

撰前

風鈴や馴て涼しの新の松　天府

新物や新うるを水とたをひとを　不春

梅の月　大津　菊二

松の濤　為屋

待ふ新の新日や庭の松　紫暁

東半宗匠一夜松撰集の

ありのうら梅ゆるハ

むのうらみのけるハ

伊勢の風初張　ひむて

うら面の物の尼あや松乃月　管鳥

しろさみ松を抱て涼の新　舞囮

松高一甚うるる電光原　社蕉

梅ゝ[illegible]動[illegible]ゝ虫のこゑ　成美

よ[illegible]ぬ梅の匂ひや雪の中　東尾

色香也　松ゝ[illegible]ゝ　私の香、

梅ゝ香の[illegible]　閑居[illegible]　宗鑑

題冬至

朝旦や[illegible]ゝ　夏田

蓮ゝ[illegible]　橋仙

ゝ[illegible]の口ほと　梅の解ゝ　自珍

炉[illegible]ゝ　梅の咲加減　帰来

梅[illegible]二日の蒼[illegible]　五雲

あつ[illegible]日や[illegible]ゝ　松の脂（ヤニ）　五来

吹[illegible]松の[illegible]　星府

や[illegible]入の[illegible]ゝや窓の雪、竹外

[illegible]の[illegible]の連[illegible]、東籬

健[illegible]ゝ[illegible]老[illegible]ゝ[illegible]の松、蕙洲

[illegible]鶴の[illegible]ゝ松の[illegible]、朶雪

梅の[illegible]の月、机月

[illegible]ゝ梅ハ今[illegible]　[illegible]の白し　田福

神の梅烏帽子ふるる鳥の羽　月渓

俤ぞ松うえん中ゆりて雪あの原　菊二

牛馬の香ゆむ梅の位うす　夏田

松風や音こそかぬの夕涼　帰来

梅うゑの戸ゆく国の春雨　芦江

松の色に調あり鹿の声　正巴

驛路

みゝ一つ長やぬのうるる松の声　文田

香ゆ白人未白やうあの雲　帰来

小松野の脂ゆうるあつ　松洞

庵ゆ尺ゆ松のみ　春坡

雪梅や下枝ハ雪の足して咲（タレて）　木姿

梅ちるて駕ゆんと思ひうり　買山

松ふを中ゆ秋の日のあ中ゆ　之兮

淀月の小野ゆ松ゆうゆ　亀兮

咲ゆ雪ゆ庵の梅　松洞

白梅ゆ去の情やみゆ　五来

梅う香やゆ朗　蘭更

咲るを梅のさかりとやいはん　臥央

知音に問もうつしし　松の陰　定雅

松のとの霞見ぬ　夏田

雪梅や咲ぬ散ぬ　春坡

雪の梅　松下の花ぬ　松の色　歸来

春の春　春の春　松洞

やよ社能ぬ　紫芳

梅色　梅の中の　園良

春の春の松を　蒸天

世や中の　松の風　木姿

遠春や　梅やむかしの日の匂ひ　春坡

春の春や　松の下　春の春　湖柳

春の梅　二三日　湖嵒

梅の日　春の匂ひ　媒之

春　春　松の壁

梅散や　草堂　灯（ナコヤ）　曉臺

咲ぬ　色香　松（ユト）　蓼太

咲春や　松の梅　梅　童厚

松苗や　の汚を流す　清水哉　米松

ひらくより香ハいちはつ　毒の色　花毫

紅梅のかしこるゝ　寒乃中　万容

世の中ハ松の四季平　義の色　其遊

小春や　南の渓の　梅ほころ　杉月

新原　富士を見たる庭の松　志逸

春の日　梅ひらくるほのぼの　うめ　十二ハ

沙新や　嘯松下　月ほころ　松洞

梅咲て　新暮の　横ゝ日　新月　定雅

小松哉や　高く咲るふるさと　乃依

梅咲て　ひらくのあつよ日　来雨

茨苔を　穿つゝ　松家　二貞

神の梅　一輪ゝ　雪の中　熊三

新月や　松咲ゝ　ゝ松ゝく　如菊

雪よりも　梅ゝ　ほころ　呉明

杜陽　社の松下　緑の色　多三

松原の　地ゝ　海を市　杜口

巾ゝ　ゝむ　小梅ゝ　霞の梅　十二ハ　旧國

こゝに松の常緑とそなむ四季ふる　元玉
おほろ月の新もゝ匂ふや春の梅　熊三
月をあつめて影のあゆミや池の松　〃
雪梅や秀の糸なるあれ畠　佳棠
折らるゝ辨当よりのやうなれば　芝雀
むつまじよ毛ゝんの元ゝちて松の月　〃
梅さくやのゝ墨吸ふ硯　銀柳
和尤の日より作ゝまや新の松　維駒
月含む松ゝう暮て新乃元　春坡

東山高野已多時

梅ゝて誰ゝ　祇園の畑を打　道立
松風も吹ゝて涼ゝ　文祥楽　菱湖
よゝき松乃隣ゝあゝて涼し　佳棠
あけぶの八ゝの三味ゝ　梅元（ミチノク）　蘭渡
名月ゝ汀ゝ高ゝ松ひゝ来　園良
新戸もゝ庭の赤ゝ　梅ゝる　擲榆（ナタ）
うあゝゝ一群ゝの信ゝ者　図牛
松ゝのゝ一閑ゝて棟毛　呂蛤

庵てゆんわうの中の松の音　蘭蔵（シラン里）

ゆうしゅんぼんのくれ　南昌

すみよしの松より暮て海東　其汀

梅探て梅折しめのあるべし、

片山や星のこぼるる園の梅　丁江（十二ハ）

梅さくや先ゆる　京乃町、　乗我

舟よをてそよや鳥うつ岸の梅　士川（ナタ）

うしろてそ嵐のあめや桃のうめ、　士喬

春月や梅のしろのうしろ、　士巧

春夜廬几董の句風雅ハなそらう

祖翁の句を慕ひ書ハ晋子の

筆ことを寫し京師の一豪

傑ことし黒米の腸を洗

ふんとたふ　すれけるを

第ことに都の旅宿に面を居て

よりふしはるの月をおもひ

筆のうるにやてのて二十年の昔歳

かれて互乃ちをの月

長崎の美味よをうろこ一日

我等ハ海中ハ

の對話中ハ

氷ふとそ先こうろんな江戸の水　巻里

田家行[illegible]時

梅咲や馬のくそ迄　江の甫　無腸

[illegible]五車反古集
[illegible]
[illegible]今の[illegible]
拾ふて其あやまちを謝す

法妙士の短冊をもらひて
聖廟に[illegible]奉るとて

墨の香の折もあらんよりの梅　九董